

# 麦づくり情報(No.4)



## 1. 麦作況情報田の生育概況(2月9日現在)

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	概況 ( )内は昨年比もしくは平年比
川副	サチホ ゴールデン 6条播き	本年値	12/1	134	7.4	207	2.7	草丈は昨年より低い。(74%) 茎数は昨年より少ない。(60%) 葉令からみた生育は昨年より遅い。
		昨年値 ※参考	12/10	115	10.0	346	4.2	
大和	シロガネ コムギ 4条播き	本年値	11/27	173	7.9	375	4.0	草丈は平年より低い。(67%) 茎数は平年より少ない。(92%) 葉令からみた生育は平年より遅い。
		平年値	11/29	134	11.8	405	4.6	

葉齢は、11月中下旬播種で現在4~5葉期、12月上中旬播種で現在3~4葉期、播種期以降平均気温が低く推移したことで停滞している。強風や積雪や寒さ等の影響から、葉が褐変・黄化している圃場が散見される。

## 2. 今後の管理

### ○追肥

生育が遅れている等の影響により、追肥が出来ていない圃場は、生育量を確保するため、早急に窒素成分で2kg/10a(例:BB480 15kg/10a)程度施用する。

### ○穂肥施用について

穂肥は大麦・小麦ともに幼穂形成期頃(3月上旬頃)に施用する。ただし、大豆後圃場の小麦の場合、施肥量は、地区によりに準ずる。

### ○麦踏み・土入れ

- ・麦踏みは、土壌が乾燥した状態で行う。また、今年は例年よりも気温が低いため、麦踏みをしすぎると生育を停滞させる可能性があるため注意する。
- ・土入れは、雑草防除と排水対策をかねて、本葉5~6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。今年は、生育が遅れている圃場が多いため、生育抑制とならないように過度な土入れを行わない。

### ○雑草対策

雑草の発生が見られる圃場では、除草剤の処理時期を逸しないように早めに茎葉処理剤を施用する。なお、麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。広葉雑草が多い圃場にはハーモニーが効果的。

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー 75DF 水和剤	1年生広葉雑草 双メテポリ 加ノグサ	5~10g /10a	100L /10a	麦1葉期~節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉期まで) (加ノグサ1~3葉期まで)	1回 以内	加ノグサには 10g/10a 土壌処理剤 との体系処理で使用
エコパート フロアブル	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には 効果がない	50~ 100ml /10a	100L /10a	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	2回 以内	薬害が出やすい ヤエムグラ に効果が高い
アクチノール 乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には 効果がない	100~ 200ml /10a	70~ 100L /10a	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回 以内	
バサグラン 液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には 効果がない	100~ 200ml /10a	70~ 100L /10a	生育期(雑草3~4葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回 以内	佐賀県施肥防除 てびきには未掲載

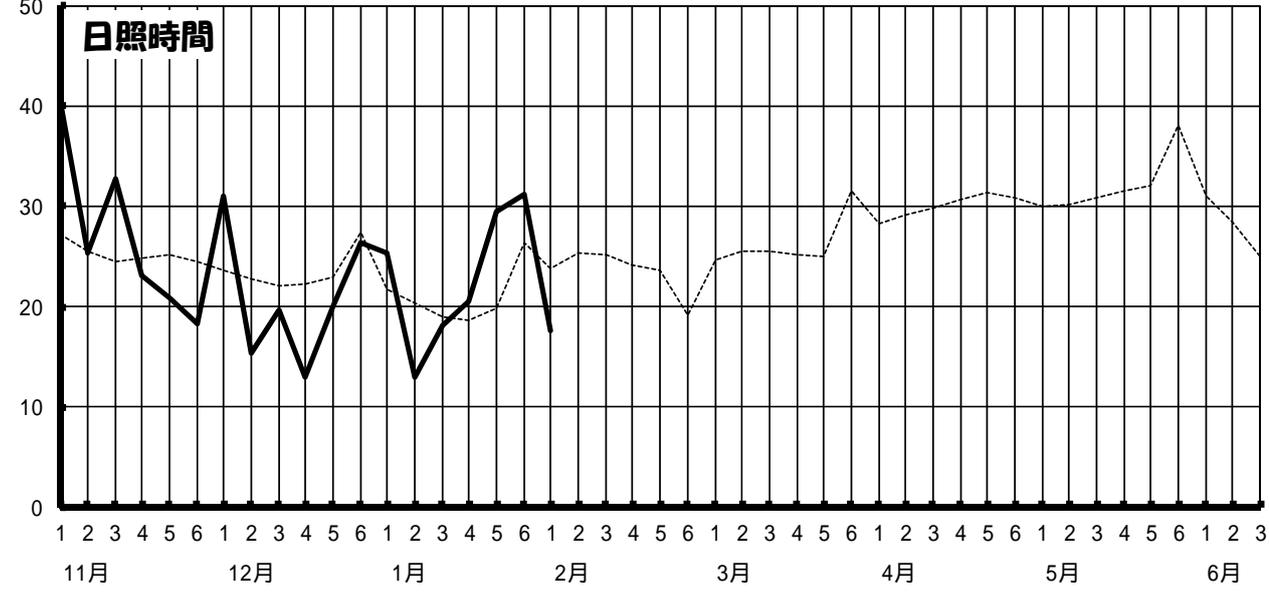
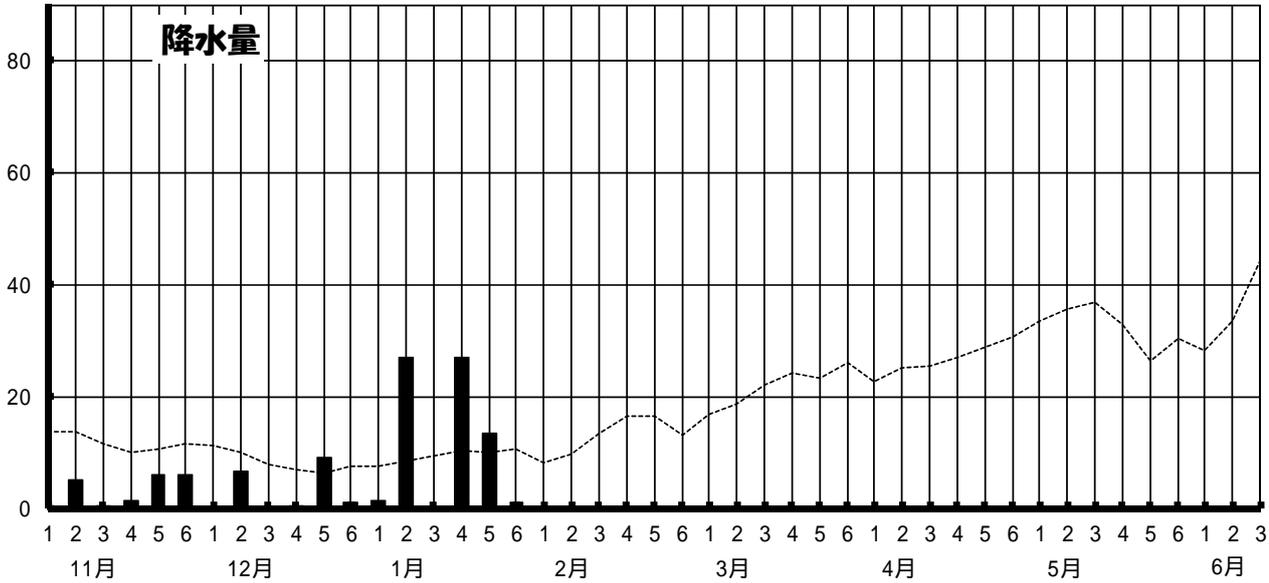
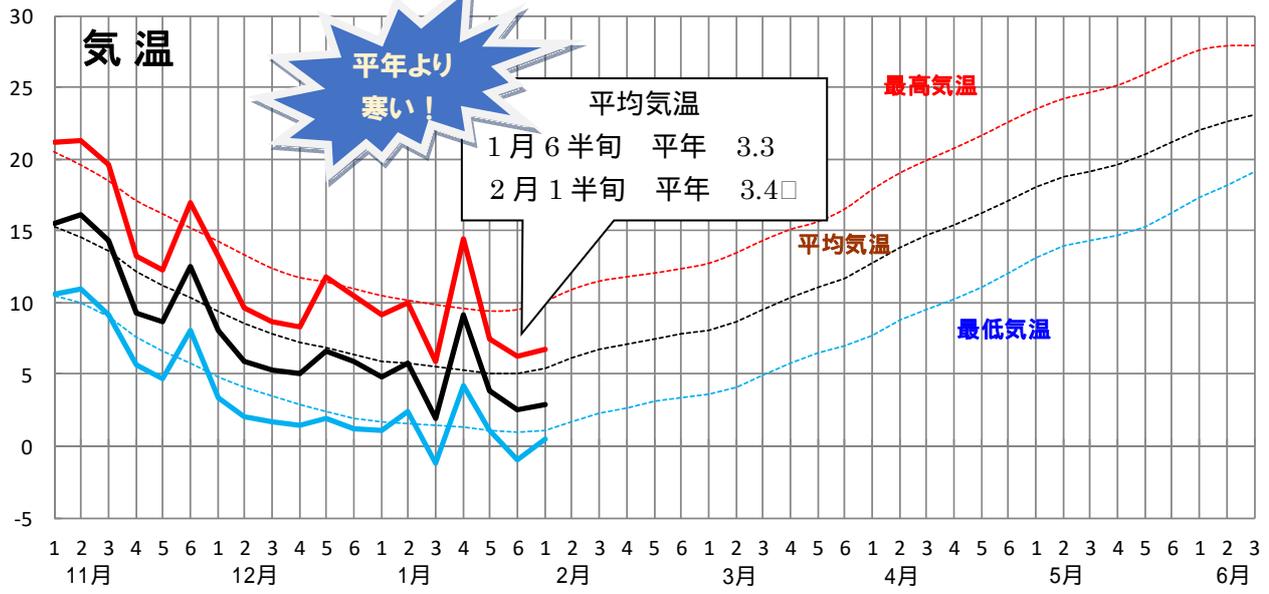
### ○排水対策

2月末~3月上旬の降雨が多くなる時期に備え、現在排水が良好な圃場においても排水対策を講じる。

### 30年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値